



# ほむる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!)◆  
 ～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～  
 【今月の一冊】トリガー 人を動かす行動経済学26の切り口  
 楠本 和矢 著 イースト・プレス  
 ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2021年3月1日 Vol. 221  
 発行元 有限会社プライム・コーポレーション  
 代表取締役 渡邊敏徳  
 〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地  
 TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

ろんご そろばん  
**論語と算盤**

## リスク

今年のNHKの大河ドラマは『青天を衝け』(せいてんをつけ)と題して、「日本資本主義の父」とも称される渋沢栄一氏が主人公として始まりました。また、2024年度には、千円、5千円、1万円の紙幣(日本銀行券)を一新すると財務省から発表されていますが、1万円札に渋沢栄一氏が印刷されることとなります。

第一国立銀行(現・みずほ銀行)や東京商法会議所(現・東京商工会議所)、東京証券取引所といった多種多様な会社、経済団体の設立・経営に関わり、同時に東京養育院等の福祉事業、東京慈恵会等の医療事業、商法講習所(現・一橋大学)、大倉商業学校(現・東京経済大学)等の実業教育、東京女学館等の女子教育、台湾協会学校(現・拓殖大学)の設立、二松學舎(現・二松学舎大学)第3代舎長就任等による私学教育支援や、理化学研究所設立等の研究事業支援、国際交流、民間外交の実践等にも大きく尽力しました。この他にも多種多様な企業の設立や運営に関わり、その数は500以上とされています。

渋沢栄一氏は、公益を迫及するという使命や目的を達成するのに最も適した人材と、資本を集め事業を推進させるという考え方を基本として、私益のための資本の集中では無く、公益の迫及、より良い社会の実現のために資本や人材を合わせる“合本主義”の重要性を説いています。

渋沢栄一氏が書いた「論語と算盤」ですが、今の時代にとっても重要なことを伝えてくれていると感じます。この本は、論語から人格形成を学び、資本主義の利益主義一辺倒にならず、バランスをとることが大切であると言っています。人間性、人格の磨き方、リーダーとしての「あり方」、人との付き合い方、また、科学技術を学び、会社で仕事をして価値を生み出し、国を豊かにすることなどごく当たり前のことを言っています。まさに「徳」と「才」の2つです。

最近特に思うことですが、この「徳」と「才」というこの2つのことをしっかりと身に着けたバランスのとれたリーダーにお目にかかなくなりましたと感じます。私は「才」ばかりでなく「徳」のある人になれるよう自分自身を磨いていけたらと思います。



そういえば一昨年、渋沢栄一氏の子孫(玄孫)渋沢健氏と甲府でお会いをしてお話をする機会がありましたが、とても真摯な方で講演内容も勉強になったことを思い出しました。

これからの社会がどうなるかを考える時に、重要な指標となるのが「人口」です。経済や科学技術に関して予測するのは難しいですが、人口に関しては非常に高い精度で予測が可能となります。私たちが暮らす日本は、2008年をピークに人口が減少に転じています。国連のデータによると、2050年には日本の人口は1億人を下回り、2100年には7,500万人にまで落ち込むと予測されています。

こうした人口減少を経験するのは、日本だけではないようです。2019年から2050年の間に55の国と地域で人口が1%以上減少するということでした。また、そのうち26の国と地域では、10%以上の人口減少がみられる可能性もあるそうです。日本と同じように、低い出生率に悩まされる国が増えているとのこと。20%以上の大幅な人口減少が予測されているのは、ブルガリア、ラトビア、リトアニア等で、これには高い移民流出率も影響しているようです。

「課題先進国」と言われる日本は、人口が減少する中で生じる様々な困難にどのように対応していくのか日本のあり方が注目されています。

一方で人口が増加していくことも大きなリスクと考えられています。世界の人口は77億人を超えています。今後最も起こりそうなケースを想定した場合、2050年に97億人、2100年には110億人という数字が予測されます。人口増加のリスクは、食料不足、水不足、自然災害リスクからは、洪水・干ばつ・サイクロン・海面上昇・温暖化などのリスクが懸念されます。コロナウイルスというリスクもありますが、これからの国の舵取りがとても難しくなりそうですね。



### 【座右の銘にしたい名言】



神様は私たちに成功してほしいなんて思っていません。ただ、挑戦することを望んでいるだけよ。  
 (マザーテレサ / カトリック修道女)